

2024年

秋の読書感想文・課題作文優秀作品

【中学部・課題作文】

中山校 A・Cさん（中山中）

今回のオリンピックに出場し、悔し涙を流していた選手の中で特に印象に残っているのは阿部詩選手である。あの日会場で巻き起こった励ましのコールは、言語の壁を越えた温かい気持ちをたくさんの人に届けたことだろう。

日本選手団全体としては健闘したといえる。資料Iをみると、今回のオリンピックで好成績を残した国々は先進国であることが分かる。その中でも、メダル数に深く関係しているのは人口よりもGDPだと考えられる。やはり何事においても富める国が有利になるのは資本主義では当たり前のだろう。

ところで、努力に対する筆者の意見についてだが、私は努力自体に別の意義を見出す必要はないと思う。成功した者がその道を振り返って、そこに見えるものを努力と呼んでいるだけだ。必要性を見出して努力したところで、成功しなければスポットライトは当たらない。では何故、今もなお努力し続ける人がいるのか。努力して、失敗して、諦めきれないからこそ、また立ち上がる。それこそ人間の傲慢で、美しい点だといえよう。

また、資料IIからは現実の成果と本人の理想とする成果の間には大きく差が開く瞬間があることが読み取れる。その後のブレイクスルーポイントまで期間が開くことも、努力を苦しい、辛いものと感じさせる要因の一つなのだろう。努力でどうにもならないことは確実にある。だが、生まれ持った才があれども、それを生かす基本的な技術がないのでは話にならない。逆に中学校程度の勉強は基礎であるから、才能には左右されにくいのではないだろうか。

今日の課題を通して、勉強ができる人は、単にこれまでに積み上げてきた知識の量が多いだけで、それができるかどうかは努力と称されているだけだと気付いた。私は天才ではないから、受験に向けちまちま努力を積み重ねていこうと思う。努力はずっと自分のそばにあって、それをどう使うかは自分次第なのだ。私はきつと何にでもなれる。

中山校 S・Nさん（中山中）

私はパリオリンピックの中で、バレーボール男子日本代表選手達がとても印象に残っている。今まで日本は予選敗退で出場できなかったことが多かったが、一人ひとりの努力が実り躍進した。だが、結果は準々決勝敗退。選手達の悔し涙に心を打たれた。

一方で日本選手団全体としては優秀な成績を残していた。資料Iを見ると好成績を残していた国々は、先進国や新興国といった経済水準が高いことが読み取れる。経済の差が成績に繋がっていると考えた。

私は努力に対する筆者の意見に共感する。また、努力について他にも考えることがある。

人は生きるために努力をする。一般的に考えられるこの努力というのは、お金を稼ぐために一生懸命働くことなどを指す。そして生きるために物を盗むなど罪を犯す人達は、努力をしていないのだと見るだろう。だがそうして罪を犯しながら生きていく人もある意味努力をしていると言えるのではないだろうか。私達とは別の方法で生きるために頭や力を使っている。努力の種類が違うだけでたとえその方法が間違っても、努力をしていないというわけではないのだ。努力が美談だとは限らない。失敗した人には、努力しなさいと言うのではなく、正しい努力の方向性を教えてあげるということを大切にすべきと考えている。

資料IIを見ると努力を続ければ、急激に成長するポイントがやってくる。資料IIを見れば、急激に成長するポイントがやってくる。資料IIを見れば、急激に成長するポイントがやってくる。資料IIを見れば、急激に成長するポイントがやってくる。

私は受験生として日々勉強に励んでいる。だんだんと成長が見える分野がある一方で、なかなか努力が実らない分野もある。そんな中で今回の課題は努力の重要性を改めて知る良い機会だった。今までは「努力は必ず報われる」ということを綺麗事だと思っていた。だが努力し続けてみないと分からない。これからは目標実現に向かって、手段や方向を変えながらも、やがて必ずや訪れるであろうブレイクスルーポイントを信じ、諦めずに努めていきたい。

【小学部・読書感想文】

※今回該当者無し